

いけんひろば  
～小学校に入るまでを振り返って楽しかったこと、  
もっと大人にして欲しかったことについて～

フィードバック資料

2023年度『こども若者★いけんぷらす』事業

# 開催概要

<p><b>テーマ</b></p>	<p>小学校に入るまでを振り返って楽しかったこと、もっと大人にして欲しかったことについて</p>
<p><b>担当省庁</b></p>	<p>こども家庭庁</p>
<p><b>開催日時</b></p>	<p>令和5年8月1日（月）～8月15日（火）17:00</p>
<p><b>開催方法</b></p>	<p>アンケート</p>
<p><b>参加対象者</b></p>	<p>「ぷらすメンバー」全年代</p>
<p><b>参加回答数</b></p>	<p>202件</p>
<p><b>主なアンケート内容</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 幼児期までの育ちを振り返って、どんな時が楽しかったですか？</li> <li>• 幼児期までの育ちを振り返って、もっと大人にしてほしかったことは何か、それはどんな時ですか？</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>

# 目次

- みなさんからいただいた意見について
- 【やさしい版】幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なヴィジョン（答申）について
- みなさんからいただいた意見を踏まえた答申の作成について
  - ① 「こどもの権利と尊厳を守る」に関連する意見
  - ② 「『安心と挑戦の循環』を通してこどものウェルビーイングを高める」に関連する意見
  - ③ 「『こどもの誕生前』から切れ目なく育ちを支える」に関連する意見
  - ④ 「保護者・養育者のウェルビーイングと成長の支援・応援をする」に関連する意見
  - ⑤ 「こどもの育ちを支える環境や社会の厚みを増す」に関連する意見
- 答申に直接的には反映されなかった意見について
- 関連リンク集



今回のいけんひろばでいただいた意見は、大人の会議（※）に出して、議論しました。そして、  
**「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なヴィジョン」（答申）**  
を作りました！

- **小学校に入るまでの重要な時期に、こども一人一人が健やかに育つことができるよう、皆に大切にしてほしい基本的な考え方をまとめたもの**です。（5ページ目から9ページ目でやさしく説明しているので、一度見てみてください！）

※大人の会議とは、こども家庭審議会幼児期までのこどもの育ち部会のことです。この部会では、幼児期までのこどもの育ちにとって大切なことなどについて話し合っています。



○みなさんからいただいた意見は「報告資料」としてもとりまとめています。  
ぜひこども家庭庁のホームページをご覧ください！！（くわしくはp.20「関連リンク集」をご覧ください。）  
○「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なヴィジョン」（答申）へのリンクは[こちらをみてください](#)。



# 【やさしい版】幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なヴィジョン（答申）について①

## 「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なヴィジョン」

（答申）

～全てのこどもの「はじめの100か月」の育ちを支え生涯にわたる

ウェルビーイング向上を図るために～

（やさしい版）

※ 幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なヴィジョン（以下「はじめの100か月ヴィジョン」と表します。）

## 『はじめの100か月ヴィジョン』って何ですか？

○こどもが小学校に入る前までの重要な時期に、一人一人が健やかに育つことができるよう、皆に大切にしてほしい基本的な考え方をまとめたものです。

○「はじめの100か月ヴィジョン」を全ての人に理解してもらうことで、社会の考え方を変えていくきっかけにすることと、「羅針盤」が方向を示すように、政府がどのような政策に取り組むべきなのかを示す役割を果たします。

## 「はじめの100か月」って何ですか？

○お母さんがこどもを妊娠してから小学校1年生の途中くらいまでを月で数えると、だいたい100か月になります。長い人生のはじめの重要な期間だというメッセージが込められています。

## 『はじめの100か月ヴィジョン』

### はなぜ必要なのですか？

こどもが小学校に入る前までは、人生を幸せな状態（ウェルビーイング）で過ごすために特に大切な時期です。

※ここでは「幸せな状態」とは、身体、心、取り巻く環境や社会の状況の全ての面で良い状態にあることを意味しており、専門用語で「ウェルビーイング」と呼んでいます。

しかしながら、どんなこどもであってもひとしく健やかに育つことができるのかについては、課題があります。

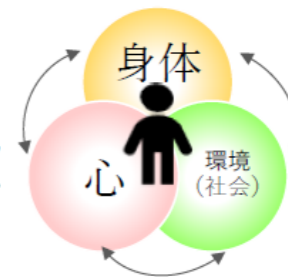
生まれるとき、保育園などに通う時、小学校に入る前後や、家庭、園、関係機関、地域などの間に切れ目が多いため、

社会全体でこどもの育ちを支える共通した考え方を共有

×

『はじめの100か月ヴィジョン』に関連する施策を強力に推進するための道しるべが必要。

全てのこどもの生涯にわたる  
身体的・精神的・社会的  
(バイオサイコソーシャル)な観点  
での良い状態・幸せな状態



⇒全ての人の  
ウェルビーイング  
向上にもつながる

『はじめの100か月ヴィジョン』では、  
どんなことを大切にしているのですか？

子ども基本法の理念にのっとり整理した  
「幼児期までのこどもの育ちの5つのヴィジョン」



- 01 子どもの権利と尊厳を守る
- 02 「安心と挑戦の循環」を通して子どものウェルビーイングを高める
- 03 「子どもの誕生前」から切れ目なく育ちを支える
- 04 保護者・養育者のウェルビーイングと成長の支援・応援をする
- 05 子どもの育ちを支える環境や社会の厚みを増す

## 01 子どもの権利と尊厳を守る

⇒子ども基本法にのっとり、  
子どもの権利が守られながら健やかに育つ

✓ 乳幼児は生まれながらに権利をもっている  
すべての子どもが、生まれながらに権利を持っている存在として  
一人一人の違いが尊重されている。

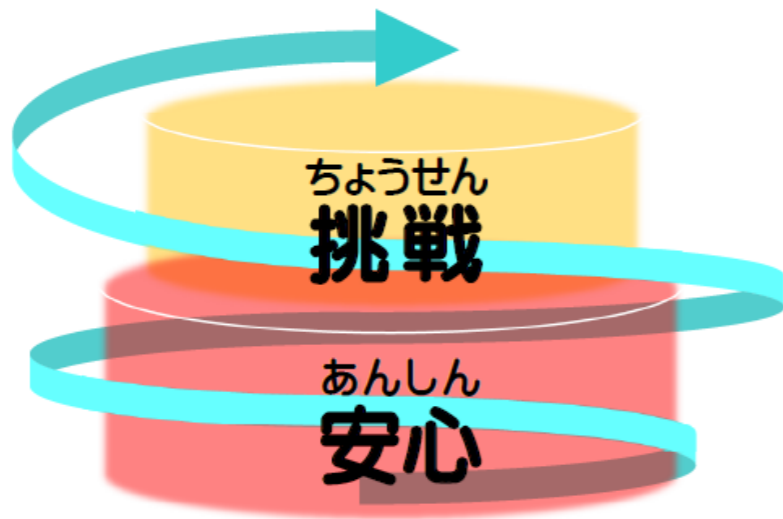
✓ 乳幼児の思いや願いを尊重する  
幼児期のこどもの意見は必ずしも言葉で表されるものではなく、  
様々な思いや願いとして色々な形で表れる。一人一人のペースがあるため、その思いや願いを受け止め尊重すること。

✓ 乳幼児の生命や生活を保障する  
どんな環境に生まれ育っても、心身・社会的にどんな状況であっても、  
すべてのこどもの生命・栄養状態を含む健康・衣食住が守られている。



# 02 「安心と挑戦の循環」を通して こどものウェルビーイングを高める

⇒ 乳幼児の育ちに「アタッチメント（愛着）」の形成と  
豊かな「遊びと体験」が重要

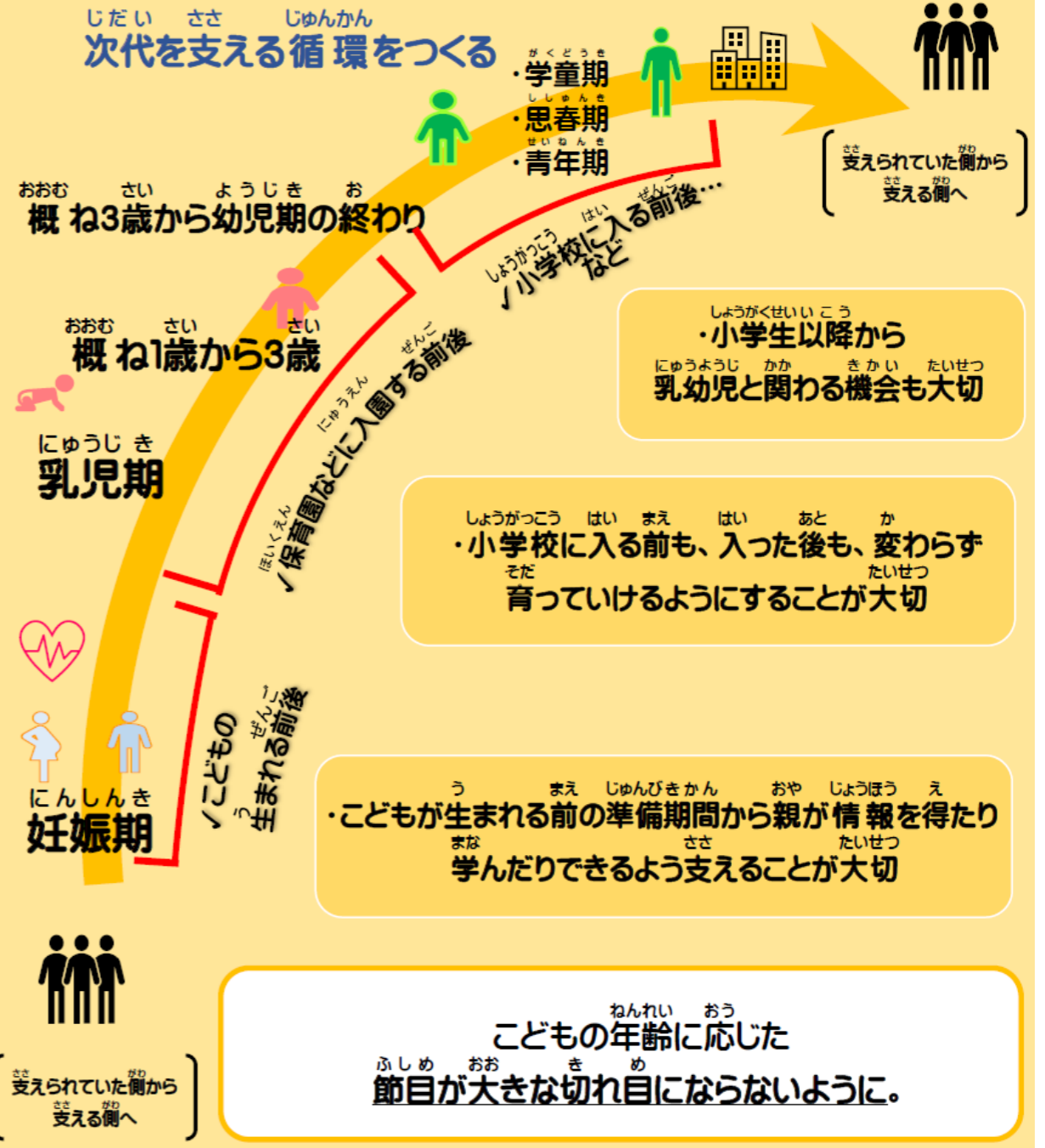


**アタッチメント（愛着）**  
＜安心＞  
こどもが不安な時などに身近な大人が寄り添うことや、安心感をもたらす経験を繰り返すことが、「安心」という土台になる。

**豊かな遊びと体験**  
＜挑戦＞  
様々な人や自然や絵本などの環境と出会い、興味関心に応じた「遊びと体験」をすることで、外の世界へ「挑戦」していくことができる

# 03 「こどもの誕生前」から切れ目なく 育ちを支える

⇒ 育ちに必要環境を切れ目なく構築し、  
次代を支える循環をつくる



04

保護者・養育者のウェルビーイングと

成長の支援・応援をする

⇒こどもに最も近い存在をきめ細かに支援

✓ 支援・応援を受けることを当たり前

こどもを育てることの一義的責任が保護者・養育者にあるからこそ、保護者や養育者が幸せな状態（ウェルビーイング）であり、親として成長できるよう、支援・応援は不可欠。

✓ すべての保護者・養育者とつながること

全ての保護者、こどもが支援につながるができるよう、こども同士がつながる身近な場所の活用など接点づくりの工夫が欠かせない。

✓ 性別にかかわらず保護者・養育者が共育ち

養育に必要な脳や心の働きは経験によって育ち生物学的な性差がないとの研究もある等

05

こどもの育ちを支える環境や社会の厚みを増す

⇒社会構造の変化を踏まえ、こどもの育ちを支える工夫が必要

「こどもまんなかチャート」

こどもの育ちを支えるために考え方を共有したい人



※空間には、幼児教育・保育施設や子育て支援の施設のみならず、公園や自然環境、デジタル空間を含む

こどもを育てる最初の責任者として保護者の役割が重要だからこそ、社会が支えて応援することが必要。

✓ こどもまんなかチャートの視点

全ての人々がそれぞれの立ち位置で、こどもを支える当事者となることについて、「こどもまんなか」の視点で分かりやすく。

✓ こどもも含め環境や社会をつくる

さまざまな立ち位置で、こどもを支える人同士をつなぐために、地域の専門職が連携したりコーディネーターを担う存在が必要。



## おわりに

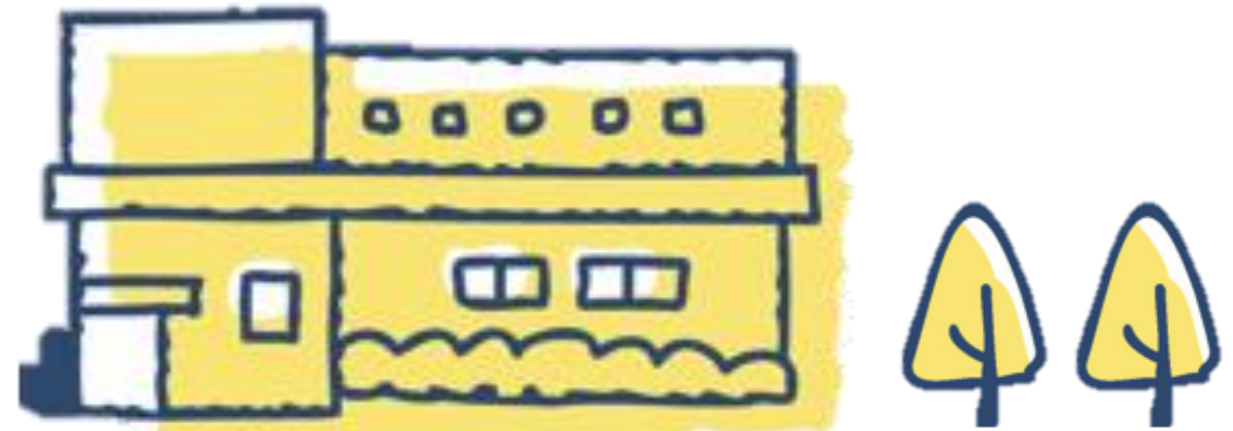
じっこうせい  
実効性のある「はじめの100か月<sup>げつ</sup>ビジョン」

ひつよう なん  
とするために必要なことは何ですか？

- ✓ <sup>たいこう もと さくてい</sup> ことも大綱の下に策定する「<sup>じっこう</sup> こともまんなか実行  
<sup>けいかく いち</sup> 計画」に位置づけられる<sup>しさを</sup> 施策へ<sup>はんえい</sup> 反映
- 具体的な<sup>ぐたいてき</sup> 施策を<sup>しさを</sup> 強力に<sup>きょうりよく</sup> 推進していくことが必要<sup>ひつよう</sup>
- ✓ <sup>かていちょう しれいとう</sup> ことも家庭庁が司令塔となり、<sup>とりくみ</sup> 取組を  
<sup>いったいてき そうごうてき すいしん</sup> 一体的・総合的に推進

### 「はじめの100か月<sup>げつ</sup>ビジョン」の

- ① <sup>じつげん ひつよう</sup> 実現に必要な<sup>しさを</sup> ことも施策の<sup>たま</sup> 絶え間ない<sup>みなお</sup> 見直しをする
- ② <sup>こうかてき</sup> 効果的に<sup>ただ</sup> 正しく<sup>りかい</sup> 理解してもらい、<sup>こうどう</sup> 行動に移してもらう。
- ③ <sup>じつげん</sup> 実現に向けた<sup>む</sup> 定期的な<sup>ていきてき</sup> 観察や<sup>かんさつ</sup> 調査、<sup>ちょうさ</sup> 確認ができる  
<sup>たいせい</sup> 体制をつくる。



## ①「こどもの権利と尊厳を守る」に関連する意見（1）

### 報告資料 (みなさんの意見)

【話を聞いて欲しかった、信じて欲しかった】※P8

- 自分が何か言った時、言葉でうまく伝えられなくても、自分の思っていることを勝手に想像して決めつけないでほしかった。（13～17歳）
- 両親が喧嘩ばかりしていたため悩むことが多かったが、親戚たちも不仲だったり片方の親の話をしてはいけないと言う雰囲気があったため、一人で落ち込むことが多かった。相談というよりは吐き出す場所が欲しかった。（13～17歳）

### 答申を作るときのポイント

- 乳幼児期のこどもの意思は多様なかたちであらわれることから、その周りの人たちは、その意思を積極的に把握し、乳幼児の思いや願いを受け止めることが重要



### 答申

- **乳幼児期のこどもの意思は多様な形で表れる。**こどもの年齢及び発達に応じて、言葉だけでなく、表情や行動など様々な形でこどもが発する声や、**声なき声が聴かれ、思いや願いが受け止められ**、その主体性が大事にされ、こどもの今と未来を見据えて「こどもにとって最も善いことは何か」が考慮されている。（こども基本法第3条第3号及び第4号関係）  
(P10)

※（）のページ数は、幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なヴィジョン（答申）のページ数を表しています。



## ①「こどもの権利と尊厳を守る」に関連する意見（2）

### 報告資料 (みなさんの意見)

【尊重して欲しかった】※P8

- こどもの自由な言動を、大人の目線で不用意に評価しないで欲しい。（18～24歳）
- 一人の人として、人格を尊重する気持ちを持って接して欲しかった。他の兄弟と自分との差別をできるだけ少なくしてほしい。（18～24歳）
- 性別によって態度を変えずにみんな平等に接してほしい。（6～12歳）

### 答申を作るときのポイント

- こどもは、生まれながらに権利の主体であることをすべての国民が認識することが重要



### 答申

- **こどもは、生まれながらにして権利の主体**であり、その固有の権利が保障されなければならない。（P2）
- 全てのこどもが、**生まれながらにして権利を持っている存在**として、いかなる理由でも不当な差別的取扱いを受けることがなく、一人一人の多様性が尊重されている。（こども基本法第3条第1号関係）（P10）
- 生涯にわたるウェルビーイング向上のためには、その前提として、全ての人の責任の下で、権利主体としてのこどもに必ず保障しなければならない権利と尊厳が、全てのこどもにひとしく保障されることが重要である。（P13）

※（）のページ数は、幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なヴィジョン（答申）のページ数を表しています。

## ①「こどもの権利と尊厳を守る」に関連する意見（3）

### 報告資料 (みなさんの意見)

- 【怒らないで欲しかった・怒る理由を教えて欲しかった】※P9
- 決めつけて怒らずに経緯やなぜその行動をしたのかを聞いてほしかった（18～24歳）
  - 叱られた時、話の長さや場の空気の重さによって、何について叱られているのか、今後どうしたらよいか分かんなくなることがありました。（18～24歳）



#### 答申を作るときのポイント

こどもの思いや願いが受け止められ、主体性が大事にされている

### 答申

- こどもと関わるにあたっては、自分自身の幼児期までの経験を振り返ったり、こどもの思いや願いを尊重して、どのように関わるのが適切かを考えたりすることも重要である。（P33）

### 報告資料 (みなさんの意見)

- 【喧嘩をしたり、喧嘩に巻き込まれりしないで欲しかった】※P9
- ケンカしないでほしかった。（18～24歳）
  - けんかしないでほしかった。もっと一緒に遊んだり、どこかに行ったりしたかった。旅行じゃなくてもいいから皆で仲良く何かしたかった。（13～17歳）



#### 答申を作るときのポイント

- 保護者・養育者間の良好な関係性は、こどもの育ちにとって大切なこと

### 答申

- こどものウェルビーイング向上に必要な考え方を、保護者・養育者と共有しつつ、保護者・養育者が安心して、社会に応援されていると感じながら子育てを行うことができる状態でいられることが、こどもの育ちに係る質を左右する。また、保護者・養育者間の良好な関係性や、保護者・養育者自身が心身ともに健康的な状態を保持することも、こどもの育ちにとって大切な要素である。（P25）

※（ ）のページ数は、幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なヴィジョン（答申）のページ数を表しています。



## みなさんからいただいた意見を踏まえた答申の作成

### ②『安心と挑戦の循環』を通してこどものウェルビーイングを高める』に関連する意見（1）

#### 報告資料 (みなさんの意見)

##### 【家族と旅行に行った時】※P4

- 普段、共働きの両親にはあまり遊んでもらえなかったから構ってもらえると嬉しかった（13～17歳）

##### 【家族と遊んだ時】※P4

- パパが仕事休みの日に保育園休んで朝から公園でたくさん遊んだ時楽しかった（6～12歳）

##### 【もっと家族と一緒にいたかった、構って欲しかった】※P10

- もっと早く父母に仕事から帰ってきてほしかった（6～12歳）

##### 【もっと家族と一緒に遊びたかった】※P10

- 大人にもっと遊んで欲しかった。ボール遊びとか、積み木とか。家の中でも遊んで欲しかった（6～12歳）

##### 【もっと出かけたかった】※P11

- 小さい子が遊ぶ施設にもっと行きたかった。親はお金がかかると言っていたから時々行くだけだった（13～17歳）

#### 答申を作るときのポイント

- 保護者・養育者がこどもと過ごす時間や触れ合う経験が持てるような環境を作ることが必要。



#### 答申

- こどもの育ちのためには、親も育っていくという視点から、子育てと家庭教育の双方の観点で、保護者・養育者自身が成長を支援されることも重要である。そのため、**こどもと過ごす時間や触れ合う経験の確保については、保護者・養育者の労働環境の整備も含めた対応が必要である。**（P23）

※（）のページ数は、幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なヴィジョン（答申）のページ数を表しています。

## ②『安心と挑戦の循環』を通してこどものウェルビーイングを高める』に関連する意見（2）

### 報告資料 (みなさんの意見)

【もっと色々なことや好きなことをやらせて欲しかった】※P11

- 色々な体験をする機会があればよかった。特に、スポーツや芸術活動はやってみて初めて楽しさや才能がわかる物だと思うので、一度でも体験できる場所が必要だと思った。（18～24歳）
- もう少し我儘とかではないけれど自分のやりたいことをやらせてくれたら良かったなと思う。（13～17歳）



### 答申を作るときのポイント

- 乳幼児期のこどもの生活の中心は遊びであり、「遊び」そのものを保障することが重要である。

### 答申

- 乳幼児期のこどもの生活の中心は遊びである。（略）言い換えれば、こどもが現在を自分らしく、よりよく生きるために保障されることであり、ウェルビーイングにつながるものである。**遊びを保障することは、こどもの「楽しい」「したい」という思いや願いを尊重すること**であり、その中で遊びが変化しながら、やがて自分のやりたいことを成し遂げるための目的のある遊びにもつながっていく。（P17）
- 遊びは、日々の生活の中で、個々のペースや興味・関心に合わせて、環境を通じてこども自身が主体的に展開していくことが大切であり、**おとなはこどもの思いや願いを尊重しながら、遊びの環境を整えていくことにも留意**する必要がある。（P18）

※（）のページ数は、幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なヴィジョン（答申）のページ数を表しています。



## ②『安心と挑戦の循環』を通してこどものウェルビーイングを高める』に関連する意見（3）

### 報告資料 (みなさんの意見)

【自由に遊んだり、沢山遊んだりした時】※P5

- 好きな時に好きなだけ遊んだこと（18～24歳）

【外で遊んだ時】※P5

- 泥団子をたくさん作ったこと。隠して次の日には壊れていて、また作ってを繰り返していた。（25～30歳）

【幼稚園や保育園での授業や行事】※P6

- 児童館の年中組だったときのお遊戯会、バリ島の踊りを踊る役に指名され、センターで踊った。練習の時から手首を回す動きができていて褒められた。（25～30歳）

【本を読んだり、読み聞かせをしてもらったりした時】※P7

- 読書をするのが好きで、いつも家の隅の日の当たるところで本を読んでいた。（25～30歳）

### 答申を作るときのポイント

- 遊びによって、こどもは身体感覚を養うとともに、言語などの認知的スキル、創造性などの社会情動的スキルを身に付ける。



### 答申

- **遊びには、こどもの様々な育ちを促す重要な機能がある。**こどもが遊びに没頭し、身体感覚を使い、自らの遊びを充実、発展させていくことは、**言語や数量等の感覚などの認知的スキルや、創造性や好奇心、自尊心、想像力や思いやり、やり抜く力、相手や現実の状況と折り合いをつける力などの社会情動的スキルの双方を育む**ことに加え、多様な動きを身に付け、健康を維持することにつながる。ひいては生涯にわたるウェルビーイングにつながる。（P17）

## ③ 「『こどもの誕生日前』から切れ目なく育ちを支える」に関連する意見

### 報告資料 (みなさんの意見)

#### 【発達連続性に留意】※P12

- 特に3歳（年少）の頃保育所に行くのが辛かった。親と離れたくないこと、周囲の友達が喧嘩などで賑やかすぎる事、先生が厳しいことなど不安なことが多くあり、送迎時によく泣いていた。（13～17歳）
- 小学校で、どんなことをしたり、生活をしているのか分からないから、いつも、どこで、何をしているのか分かるようにしてほしい。例えば、ふだんの学校生活の見学、ふだんの学校生活の動画、質問する機会など。（6～12歳）



#### 答申を作るときのポイント

- 乳幼児に関わる人たちが密に連携することは重要。
- 年齢や学年の事情で引かれた線が、こどもの育ちの大きな切れ目にならないよう留意。

### 答申

- 各分野や立場を越えた認識共有により、**乳幼児に関わる人が緊密に連携し**、切れ目のない「面」での支援が実現できている社会（P3）
- 一人一人のこどもの成長に目を向けると、誕生日前後、就園前後、小学校就学前後と、いくつか大きな節目はあるものの、本来こどもの発達は、一人一人違うペースで、絶えることのない連続性の中で進む。「こどもまんなか」の発想に立ち返れば、**年齢や学年の事情で引かれた線が、こどもの育ちの大きな切れ目にならないよう**、環境（社会）の不断の改善を図っていく必要がある。（P7）

## ④「保護者・養育者のウェルビーイングと成長の支援・応援をする」に関連する意見

### 報告資料 (みなさんの意見)

#### 【保護者・養育者への周囲の支え】※P12

- 自分に対しては十分だったが、両親に対してはもう少しまわりからの理解や援助があれば良かったと思う。(13～17歳)
- 両親は若く結婚・出産したため生活に余裕がなく、働いてばかりで家族が揃う時間が少なかったため、家族揃って楽しく過ごす時間がもっと欲しかった。(25～30歳)

#### 答申を作るときポイント

- 社会全体で保護者・養育者への支援・応援をすることが大切



### 答申

- また、こどもの誕生後も含めて、乳幼児は身近な保護者・養育者の影響を強く受けることや、保護者・養育者自身にとっても「こどもの誕生前から幼児期まで」は最初期であり、特に支援が必要であることを踏まえ、「こどもの育ち」そのものを支える観点から、**こどもとともに育つ保護者・養育者のウェルビーイングと成長を支えることが重要**である。(P13)
- 地縁・血縁の希薄化など社会情勢の変化によって、子育てを取り巻く環境が大きく変わっている中で、子育ては悩むものであり、誰かに相談するのは恥ずかしいことではなく、こどものウェルビーイングのために、**子育てを自分だけで背負わず、必要な親子関係の構築に向けた支援を受けたり、主体的に親が育っていくための学びの支援や応援を受けたりすることが当たり前であると、保護者・養育者が感じることのできる環境（社会）をつくっていく必要がある。**(P22)



## ⑤「こどもの育ちを支える環境や社会の厚みを増す」に関連する意見

### 報告資料 (みなさんの意見)

#### 【経済的支援が欲しかった】※P12

- うちはお金がなかったので、習い事ができなかった。他の家庭との差も感じていたので、挑戦できないことがすごく悔しかった。子どもはお金の心配をしなくてすむように格差をなくしてほしい。(18~24歳)
- 私は、小さいころから体で表現することが好きで、バレリーナになりたかった時期があったが、バレエをする為に準備するものや、発表会にかかる費用が高く、費用が払えずに仕方なくやめる事になった。私みたいに、自分のやりたいこと、なりたいものに経済的な理由で諦めなくていいように、何か経済的支援をしてほしかった。(13~17歳)



### 答申を作るときのポイント

- 家庭や子育てに夢を持ち、子育てに伴う喜びを実感できる社会環境をつくる

### 答申

- 事業主は、家庭や子育てに夢を持ち、子育てに伴う喜びを実感できる社会環境を整備するというこども基本法の理念を実現するための重要な役割を担う主体として、**その雇用する労働者の職業生活と家庭生活の充実が図られるよう、必要な雇用環境の整備に取り組むこと**が求められる。(P.31~32)

※ ( ) のページ数は、幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン(答申)のページ数を表しています。

今回のいけんひろばでいただいた意見のなかには、残念ながら答申に直接的には反映されなかった意見もありました。報告資料P11の『安心と挑戦の循環』を通してこどものウェルビーイングを高める』に関連する意見でいただいた、【勉強や習いごとをさせて欲しかった】に関する意見について、直接的には反映することができなかつたので、なぜ反映することができなかつたかをまとめました。

### 直接的には反映されなかった主な意見

【勉強や習いごとをさせて欲しかった】※P11

- もっと学習環境を整えてほしかった。経済的に仕方なかったが、他の同級生と比較してできる習い事が少ないと感じていた。(25～30歳)
- 習い事をさせてほしかった。ピアノや習字、水泳など。(13～17歳)



### 直接的には反映されなかった理由について

答申では、幼児期までのこどもについて、豊かな「遊びと体験」の機会を保障することや、それを学びにつなげていくことの重要性、また、こどもの思いや願いを受け止め、今と未来を見据えて、こどもの最善の利益を図る必要があることなどについて記載していることから、「勉強や習いごと」については、特筆して記載はしていません。



### 「こども若者★いけんぷらす」についてのホームページ

[「こども若者★いけんぷらす」について | こども家庭庁 \(cfa.go.jp\)](https://cfa.go.jp/)

### 「いけんひろば～小学校に入るまでを振り返って楽しかったこと、もっと大人にして欲しかったこと～」についてのホームページ

[いけんひろば ～小学校に入るまでを振り返って楽しかったこと、もっと大人にして欲しかったこと～ について | こども家庭庁 \(cfa.go.jp\)](https://cfa.go.jp/)



### 「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン（答申）」についてのホームページ

[幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン | こども家庭庁 \(cfa.go.jp\)](https://cfa.go.jp/)